



町の話題



上手に滑れるようになったよ 後三年スキー場で「スキー教室」

町主催のスキー教室が1月7日から9日までの日程で後三年スキー場を会場に開かれ、町内の小学1年生から3年生の児童約100名が参加しました。子どもたちは、町スキー連盟の皆さんの指導のもと元気いっぱい斜面を滑り、3日間の教室でスキーの腕前を上達させました。

後三年スキー場 営業時間のお知らせ

料金は無料ですので、どうぞご利用ください。(ゲレンデ状況や天候により、休業する場合があります。)

問●後三年スキー場
☎0187(83)2707

営業期間	営業時間
~3月18日(日)	月曜日:休業日 火曜日~金曜日:午後5時~午後9時 土曜日:午前9時~午後9時 日曜日:午前9時~午後5時

部員と指導者のレベル向上をめざして あきぎんバスケットボールクリニック

1月14日に美郷総合体育館リリオスで、あきぎんバスケットボールクリニック(あきぎんYMC主催)が開かれ、町内3中学校の女子バスケットボール部員約20名が参加しました。

クリニックでは、秋田銀行女子バスケットボールチームの青木拓郎ヘッドコーチを講師に、同チームの選手がアシスタントとして部員らを指導。部員たちは、青木コーチの言葉を聞き逃さないよう真剣な面持ちでドリブルやシュートなどの練習に取り組んでいました。



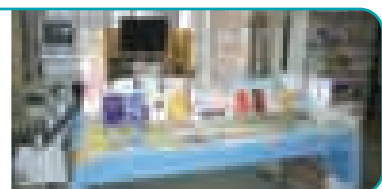
▲講師の加藤葉子さん、さつきさん親子

台所に立つお父さん、カッコいいよ 親子チャレンジ教室 パパと一緒にクッキング

1月22日に美郷町保健センターで「親子チャレンジ教室」が開かれ、6組19名の親子が参加しました。参加者は、美郷町男女共同参画住民懇話会委員の加藤葉子さんと娘のさつきさんを講師に、餃子の皮を使ったピザや、食パンを使った海苔巻など6品に挑戦し、親子で協力しながら楽しく調理を進めました。この教室は、普段仕事でお子さんと一緒に過ごす時間が少ないお父さんに、お子さんとの楽しい時間を過ごしてもらおうと毎年行われており、今年度は2回目の開催です。参加者の中には、お子さんの手際の良さに感心するお父さんの姿が見られるなど、子どもの成長を実感する機会にもなったようです。

※今回皆さんが挑戦したレシピは、町のホームページで公開しています。ご家庭でもお父さんと一緒にチャレンジしてみませんか？

美郷町学友館図書館に「男女共同参画図書コーナー」を設置しています。ぜひお立ち寄りください。



岩手県釜石市教育長が防災教育をテーマに講演 美郷町教育を考える会 冬季研修会

1月12日に美郷町公民館で、美郷町教育委員会と美郷町教育を考える会（会長・小松陽一六郷小学校長）共催による冬季研修会が開かれ、岩手県釜石市の川崎一弘教育長が「生き抜く力を身につける防災教育の在り方」と題して講演しました。釜石市は、東日本大震災の津波発生時に市内の小中学校14校の児童・生徒約3,000人のうち100%近くが避難し、ほぼ全員が無事だったことから『釜石の奇跡』と呼ばれています。

川崎教育長は、小中学校の防災教育として安全マップの作成や着衣水泳などを実施しているほか、地域の自主防災組織と一緒に避難訓練を行っている例を紹介したうえで、「震災を経験し生かされた人間として、この経験を伝えることで一人でも多くの命が救われれば」と穏やかな口調で参加者に語りかけました。会場には町内各園・小中学校の教職員のほか、消防団員や自主防災組織の関係者など合わせて約280名が訪れ、川崎教育長の講演に耳を傾けました。



■川崎一弘釜石市教育長

たまたまの合致とは思いますが、混乱を含めてここしばらく世の中が新しい動きに囲まれています。例えば今後の日本に大きな影響を与えるTPP問題や「超」のつく円高、そして原発事故に端を発したエネルギー問題に消費税増税問題などなど。新たな風とも表現できるこうした動き、自治分野では地域政党「大阪維新の会」の動きがそれ



▲第1回町議会臨時会で行政報告を行う松田町長



「新たな風」

美郷町長 松田知己

です。

政治手法には賛成しませんが、主張している大阪都構想に私は賛成です。その理由は日本にはWエンジンが必要だと思うからです。もし東京が災害でダウンすれば日本は立ち往生です。そうした際に首都機能を代替できる機能集積地が必要で、そのために府と政令市の権限をまとめ、重複など無駄を排除しながら対処システムを整理していくことは必要ではないかと思えます。風の善し悪しは別にして、風が吹くに吹くだけの理由があります。さて、こうした新しい風は身近なところでも吹いています。私たちの伝統行事「竹うち」がそのひとつです。皆さんもご存知のとおり、ここしばらく竹うちでは乱闘騒ぎが続いておりました。「竹うちはそういうものだ」と言う方もいますが、見ていて決して気持ちのいいもので

はありません。そこでこの問題を何とかしようと、一昨年、町内の有志が「六郷カマクラ井戸端トーク」を立ち上げ、提言をまとめました。まさに竹うちにとっての新たな風です。主催団体の「六郷カマクラ保存会」では、その提言を受けて改善策を実施し、乱闘騒ぎは見事収まり、新たな風は確かな成果を残しました。しかし、さらにもうひとつ、成果を期待したいことがありません。打ち手の増加です。これまで「危ないから参加しない」と思っていた方も多いだろうと思いますが、乱闘は収まりました。どうか皆さん、美郷の大切な伝統行事を次世代に繋いでいく意味でも、今年は竹うちに打ち手として参加してください。きっと、竹うちの魅力を町外に発信する新たな風にもなるだろうと思えます。

「じゃあ町長も参加してね」という声がありそうですが、これが実に難しい。自宅で判断すれば南軍、役場で判断すれば北軍。と言うことですみませんが私は・・・とします。